

『Q』とは、クイーンのQである。あの伝説の
として最近、盛り上がったばかりの「ボヘミアン・ラプソディ」
のあのクイーンだ。実は、その盛り上がりが起こる二年
ほど前、「クイーンの周辺」から、こんな話が私の所に
舞い込んできた。それは、ボヘミアン・ラプソディを含むクイーンの
アルバム「オペラ座の夜」の演劇性を、本当に「演劇」
として広げられないものか、それをクイーンが好きな日本の
劇作家、演出家^{ヒデキ}にお原真^{ヒデキ}いてきかないかというものであった。
「棚からぼたもち」「カホウは寝て待つ」「四十年^{地道に}芝居やれ、いいとあるぞ」
なのである。私は半信半疑ながら、半身半着の汗だくでワグジョブを
重ねて、私なりに「オペラ座の夜」から得たインスピレーションを文字
に起こして「クイーンの周辺」にお届けしたところ、何と本当に
「クイーン」からOK、やってくれ」という返事が来た。というわけで
『Q』は、クイーンのQだが、話は「ボヘミアン・ラプソディ」のような
クイーンの実話^金ではない。どちらかと言えば、「ロミオとジュリエット」
の後日談である。そして「歌舞伎の夜」という副題も、勢いで
つけただけで、芝居は全然カブキじゃない。でもカブキではある
かな？という代物^{しつもの}、こんな感じで始まります。
「時は、12世紀の末、ここは日本、世は侍の時代の始まり」
……」として、クイーンの名曲が聞こえてきます。
あの

野田秀樹